データセキュリティワーキンググループとりまとめ概要

2026/03　戦略・組織グループ　国際戦略

デジタル庁
Digital Agency

データセキュリティWGとりまとめ概要（データセキュリティの重要性）

➢ **AI等先端技術の急速な進展**に伴い、他の組織との**データの共有・連携は不可欠な営み**になる一方、データに関連する**リスクも多様化、複雑化**。

デジタル化によって増大するリスク

データを処理するサービスの多様化・複雑化等に伴うリスク

データの格納場所や各サービスにおけるデータの処理の内容、サービス提供者との契約内容等が複雑化。そのため、予期せぬリスクが発現した場合、その原因の究明が難しくなっている。

データの連携・共有先に起因するリスク

データの連携・共有先において、データ提供者の意図しない形で、データが扱われ、当該データに付随する「法益」が侵害されるリスクがある。

先端技術に起因する予期せぬリスク

生成AI等の先端技術を利用する場合、その高度な処理能力から、その処理内容を予め把握しておくことは困難であり、予期せぬ法益侵害リスクが発現する可能性がある。

法令等の増加・多様化に伴うリスク

データの越境移転を制限するような動きが世界全体で増加傾向にあり、それらの最新の状況を把握しておかないと、予期せぬ負担等を負わされるリスクがある。

➢ 他者との**データ連携・共有を促進**し、**効率化や新たな価値の創出を促す**ため、DFFT※ の考え方のもと**「データセキュリティ」の基本的な考え方を提示。**

本とりまとめでは、国の内外を問わず他の組織とデータの共有・連携を推進することで生じ得る、法益侵害リスクに対処するための一連の営みを「データセキュリティ」と定義し、検討を実施。

※信頼性のある自由なデータ流通：Data Free Flow with Trust（DFFT）は2019年に我が国が提唱した概念である

データセキュリティWGとりまとめ概要 （データセキュリティの考え方）

➢ リスクを社会的に受容可能なレベルにコントロールし、新たな価値の創出を促進するための考え方を提示。

データセキュリティの考え方

「データセキュリティ」の考え方を実装することで、
データの越境移転を安心・安全に実現し、新たな価値の創出を促進する

法益を念頭に置く

- ✓ 既存の法令により、どのような利益（法益）がどのような方法で、どの程度保護されているのかを具体的・分析的・機能的に捉える。
- ✓ 「データセキュリティ」の確保を通じて実現されるべき保護の内容やレベルを考察する。

リスクを社会的に受容可能な範囲内にコントロールする

- ✓ AI等が浸透した現在において、リスクをゼロにすることは困難。
- ✓ ゼロリスクを求めると、結果的に得られる可能性のあった「データの越境移転」へのインセンティブを阻害するおそれがある。
- ✓ リスクを法令が本来想定している法益保護のレベル、すなわち社会的に受容可能なレベルにコントロールすることが重要。

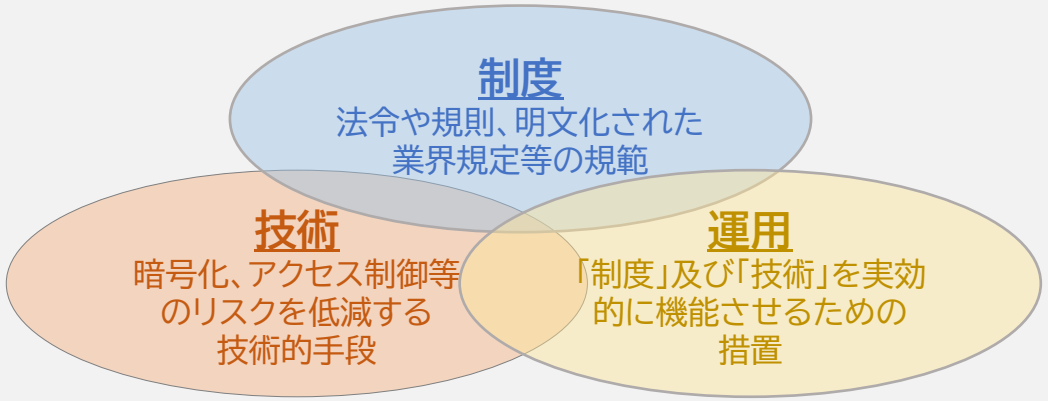
「制度」「技術」「運用」三位一体の対策

- ✓ リスクを社会的に受容可能なレベルまで低減させるには、「制度」「技術」「運用」の三位一体の措置を講じることで、より実効性のある対策が可能となる。
- ✓ 越境移転するデータを主体として、データ利用の文脈で生じ得るそれぞれのリスク対策について、三位一体の措置で見直すことが重要。

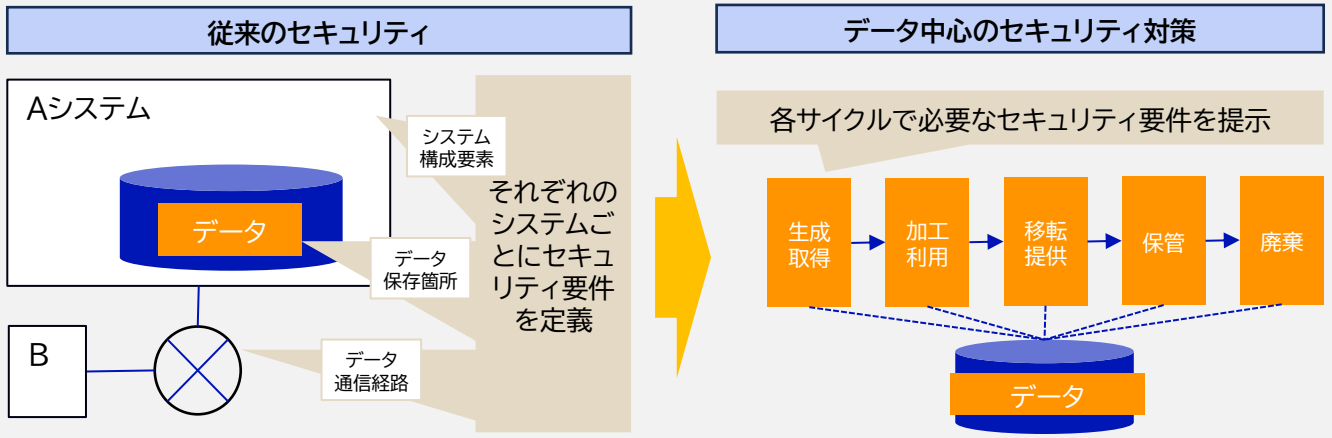
ライフサイクルにおける各フェーズでの対策

- ✓ リスクは、データのライフサイクルの各フェーズや、利用文脈に応じて生じる。
- ✓ 組織全体における画一的な施策のみでなく、データ自体に軸を置いたセキュリティを講じることが重要。
- ✓ ライフサイクルの各フェーズを捉えそれぞれのフェーズにおいて適切な措置を実施する。

■三位一体の対策のイメージ



■データ自体に軸を置いたライフサイクルに応じた対策のイメージ



データセキュリティWGとりまとめ概要 （マッピングの有用性）

- 「制度」「技術」「運用」の三位一体で講ずるデータセキュリティの在り方を可視化。
- マッピングにより、データのライフサイクルに対応したリスクと、それに対する具体的措置を構造的に整理。
- リスクを社会的に受容可能な範囲にコントロールし、データの共有・連携による新たな価値創出に寄与。

「制度」「技術」「運用」で講ずるデータセキュリティのマッピング

■マッピングの進め方

ユースケースとライフサイクルの整理	✓ 特定のユースケースにおけるデータの流れの可視化 ✓ データのライフサイクルを各フェーズに整理
関連法令の抽出	✓ データのライフサイクルの各フェーズにおける関連法令を可視化
法益とリスクの整理	✓ 関連法令が保護している「法益」を整理・可視化 ✓ 法益侵害の発現態様の整理
技術的リスクの抽出	✓ 法益侵害が、どのような技術的リスクで発現し得るかを整理
技術的措置のマッピング	✓ 技術的リスクを低減できる措置を、ライフサイクルの各フェーズにおいてマッピング

本とりまとめの考え方を国際的に打ち出し、我が国がデータに係る議論を主導していくことも重要

（参考）データセキュリティワーキンググループ構成員 開催実績

属性	氏名	組織・役職
座長	稲谷 龍彦	京都大学　大学院法学研究科　教授
アカデミア	門林 雄基	奈良先端科学技術大学院大学　教授
	酒井 啓亘	早稲田大学法学学術院　教授
法律実務家	北山 昇	森・濱田松本法律事務所外国法共同事業　パートナー弁護士
関連団体	神田 雅透	独立行政法人情報処理推進機構　セキュリティセンター　技術評価部 部長
	坂下 哲也	一般財団法人日本情報経済社会推進協会（JIPDEC）常務理事
民間企業	大野 健太	株式会社Preferred Networksエンジニアリング・マネジャー
	佐藤 恵一	株式会社　日立製作所　公共システム事業部 パブリックセーフティ推進本部　パブリックセーフティ第二部 部長
	高橋 克巳	日本電信電話株式会社 NTT社会情報研究所 主席研究員
	竹之内 隆夫	株式会社Acompany パブリック・アフェアーズ スペシャリスト /プライバシーテック協会 事務局長
	細川 光太	住友電気工業株式会社 情報システム部　セキュリティ技術グループ グループ長

◆開催実績

2024年11月
データセキュリティWG立ち上げ
第1回データセキュリティWG
- データセキュリティ立上げの経緯
- 検討の方向性の提示

2024年12月
第2回データセキュリティWG
- データセキュリティ検討に当たっての3つのポイントの提示

2025年6月
第3回データセキュリティWG
- とりまとめ（案）の提示

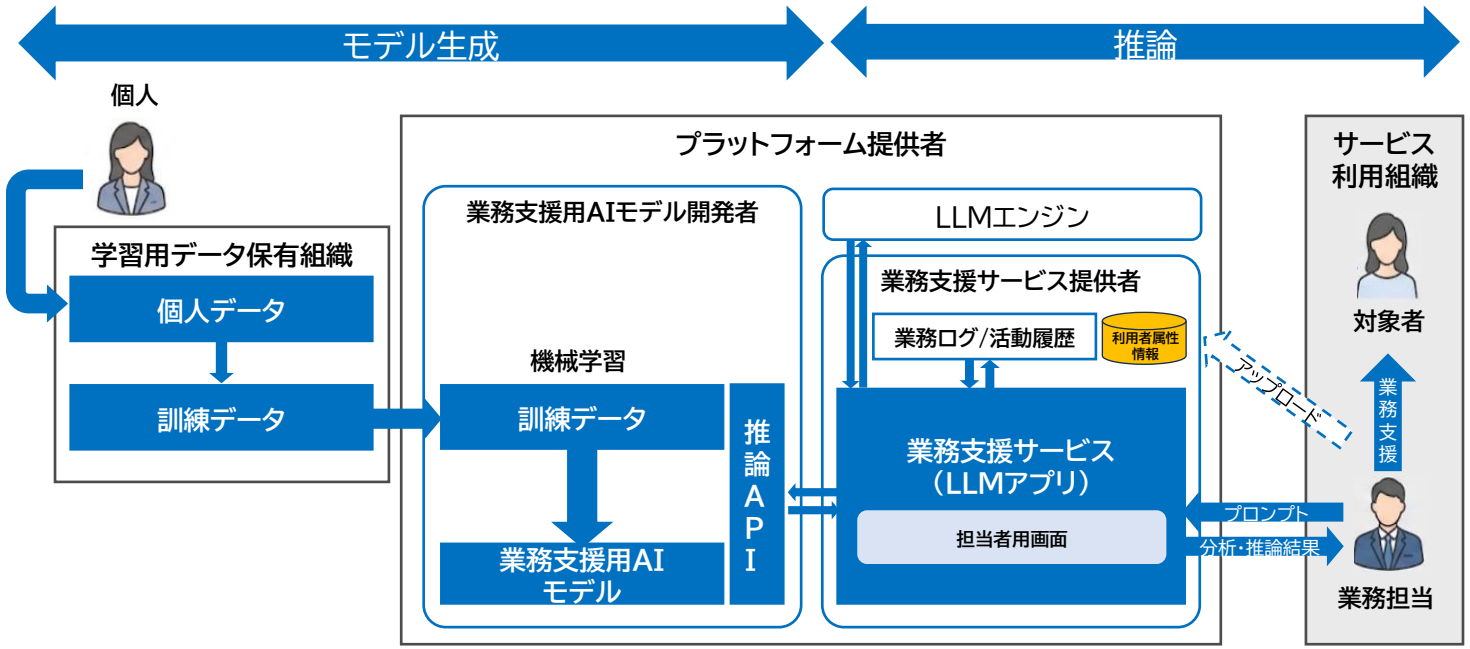
2025年9月
データセキュリティWGアイデアソン
- とりまとめ（案）に添付する技術マッピングの実施

（参考）アイデアソンの概要

- AI時代において、重要性が増している「DFFT」の推進を目的として、本ワーキンググループで抽出された論点を実践的に検証するアイデアソンを実施。
- **生成AIを活用して、特定の業務支援を行うことを想定した「汎用的なビジネスモデル」**を検証用のユースケースとして採用。
- AIモデルの「学習」から「推論」に至る**データライフサイクル全体のリスクを特定し、解決策となるPETs（プライバシー強化技術）等の保護措置を具体的にマッピング。**

日時	2025年9月1日（月）
場所	デジタル庁
参加者	学識経験者、法律実務家、事業者、技術者等
具体的な検討内容	✓ データのライフサイクルに応じた固有の技術的リスクの洗い出し ✓ リスクに応じた適切な技術（PETs等）の防護措置の提示とマッピング

アイデアソンで想定したユースケース



※本図はアイデアソンにおける検討用の仮定モデルであり、特定の実在するサービス等を示すものではありません。

デジタル庁

Digital Agency